

第20回「音の日」イベントと 第18回「音の匠」顕彰について

「音の日」実行委員長

森 芳久

日本オーディオ協会の重要なイベントの一つ「音の日」も、昨年12月6日に第20回を迎えました。これもひとえに、日本オーディオ協会会員の皆様、そして関連団体の日本レコード協会、日本音楽スタジオ協会などの会員の皆様のご協力・ご支援の賜物であります。「音の日」実行委員長として、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

日本オーディオ協会では、本年度の「音の日」の記念行事として、“「音の日」20回を振り返る”と題して、その「音の日」の設立経緯や、その主旨の説明、そして当初「音の日」の告知のための宣伝活動などをご紹介いたしました。既にご承知のように、12月6日を「音の日」と制定したのは、かの発明王トーマス・エジソンが1877年12月6日に世界初の錫泊円筒式蓄音機『フォノグラフ』を発明したことに由来しています。そこで、この講演の冒頭にこのエジソンの『フォノグラフ』（今回使用したものは、エジソンが当初のものを後に改良した1900年代の蝋管蓄音機）で、実際の音を出しました。100年以上も前に製造された蓄音機から朗々たる音が再生され、会員の皆様の中から思わず驚きと感嘆の声があがりました。果たして、今日の複雑化した高級オーディオ製品が100年後にこのように再生できるのか、なんとも難しい問題ではないでしょうか。電気を一切使わない機械式の素晴らしさを改めて感じました。



「音の日」20回を振り返る



円筒式蓄音機「フォノグラフ」と筆者

「音の日」が設立された1994年と第2回目の1995年には、朝日新聞に見開き広告を掲載するなど、その告知に業界こぞって力を注いできたことなども紹介しましたが、その中で「音の日」には親しい人にCDやレコードを贈ろうというキャンペーンも唱えられていました。明らかに2月14日のバレンタインデーを意識したものでしたが、残念ながら「音の日」はそれなりに認知されたものの、CDやレコードを贈るという文化は育ちませんでした。

第3回「音の日」から、音を通じ私たちの暮らしや社会に貢献されている方を「音の匠」として顕彰する活動を始めました。これは、オーディオ・音楽・放送業界のみならず、広く一般の方々にも素晴らしい音の世界を認識してもらうことを目的とし、今日まで進めてまいりました。

これまで、過去17回の「音の匠」顕彰をおこなってきましたが、1996年度第1回「音の匠」から昨年第17回「音の匠」までスライドでご紹介させていただきました。改めてこれまでの「音の匠」の方々の偉業に感銘すると同時に音の世界の素晴らしさを再認識いたしました。おかげさまで徐々にではありますが「音の日」が定着し、また「音の匠」も確実に認知が広がっている手応えを感じることができました。今回は「音の日」20回記念ということもあり、多くの歴代の「音の匠」の方々や関係者に列席いただけたことも、主宰者としては大きな喜びであり誇りでもありました。



第1回顕彰式（JAS ジャーナルより転載）と第1回受賞者の針谷 照氏

さて、今年度第18回「音の匠」は“VOCALOID”の開発者、剣持 秀紀氏（ヤマハ株式会社 VOCALOID プロジェクトリーダー）を顕彰いたしました。

VOCALOID は歌声合成技術により誰もが簡単に歌声を演奏できる楽器で、初音ミクの歌声も同種の楽器が用いられています。このVOCALOIDに関しては本誌に「音の匠」として顕彰されました、剣持 秀紀氏自らの寄稿がございますのでそちらをご参照ください。



顕彰式：左から電波新聞社平井社長「音の匠」剣持 秀紀氏、校條会長



講演中の剣持氏



多くの方々が参加した特別講演会

また、「音の日」のもう一つの記念イベントとして、すぐれた音による音楽ソフトを制作するプロの録音関係のエンジニアを顕彰し、エンジニアの重要性の認知や社会的な地位の向上を図ることを目的に制定された「日本プロ音楽録音賞」の授賞式が行われ、合計 84 件の応募作品（部門 A 6 作品、部門 B 10 作品、部門 C 27 作品、部門 D 11 作品、部門 E 4 作品、部門 F 26 作品、）から、最優秀賞 6 作品、優秀賞 8 作品、ベストパフォーマー賞 1 作品、新人賞 2 作品が受賞されました。

詳しくは一般社団法人日本音楽スタジオ協会会報誌「JAPRS 会報 2014 No.1 初春号」の P28 から P46 をご参照ください。JAPRS 会報の URL は下記となります。

http://www.japrs.or.jp/japrs_news/pdf/news_2014_No1.pdf

「音の日」の記念事業の最後は、音の匠・日本プロ音楽録音賞受賞者を祝して、恒例の「“音の日”のつどい」が行われました。約 150 名もの会員や関係者のご出席で会場のあちこちでオーディオ談義が繰り広げられ、和やかな中に「音の日」を締めくくることができました。ここに重ねて御礼申し上げます。



「“音の日”のつどい」の様子



剣持氏（左）と談笑する
電波新聞社平山社長